サキガケ®楽粒®

■種 類 名：イプフェンカルバゾン・テフリルトリオン・フロルピラウキシフェンベンジル粒剤
■有効成分：イプフェンカルバゾン----------10.0%
テフリルトリオン----------12.0%
フロルピラウキシフェンベンジル ----------2.0%
■化管法指定物質：イプフェンカルバゾン［第１種］----------10.0%
テフリルトリオン［第１種］----------12.0%

■登録番号：第24559号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2021.10.27
■性　　状：類白色～淡褐色粒状
■有効年限：5年
■包　　装：250g×12袋、2.5kg×2袋
10kg（担い手直送規格）

【特長】

- 北興化学工業が開発した新規拡散型製剤。1ha 水田でも中に入らずに散布できる。
- さまざまな方法で散布が可能。通常の湛水散布、湛水周縁散布のほか、水口施用、無人航空機による散布、水田の畦畔一辺からの散布等ができる。
- 特長ある３つの有効成分で、ノビエや問題雑草を総合的に防除できる。

【適用内容】（2024 年 11 月末日現在）

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ｲﾌﾟﾌｪﾝｶﾙﾊﾞｿﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌﾛﾙﾋﾟﾗｳｷｼﾌｪﾝﾍﾞﾝｼﾞﾙを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ ヘラオモダカ セリ オモダカ クログワイ シズイ エゾノサヤヌカグサ ナガエツルノゲイトウ	移植直後～ ノビエ３葉期 但し、 移植後３０日 まで	250g /10a	１回	湛水散布、 湛水周縁散布、 水口施用 又は 無人航空機による散布	２回以内	２回以内	３回以内
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲１葉期～ ノビエ ２.５葉期 但し、 収穫９０日前 まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布			

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの３葉期まで（直播水稲は２.５葉期まで）に時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。
ホタルイは３葉期まで（直播水稲は２葉期まで）、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサは２葉期まで、ヘラオモダカは１葉期まで、ミズガヤツリは草丈１５㎝まで、ヒルムシロは発生盛期まで（直播水稲は発生期まで）、セリは増殖期まで(直播水稲は再生期まで）、オモダカは矢尻葉１葉期まで、クログワイは発生始期まで、シズイは草丈３㎝まで、ナガエツルノゲイトウは草丈 10㎝までが本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、シズイ、ナガエツルノゲイトウは発生の期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 苗の植え付けが均一となるよう、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 本剤は吸湿性があるので、ぬれた手で作業したり、降雨等で薬剤がぬれないように注意すること。また、開封後は早めに使用すること。
- 本剤は、水の出入りを止め、やや深め（水深５～６ｃｍ）の湛水状態に保った状態で散布すること。散布後、少なくとも３～４日間は通常の湛水状態(水深３～５ｃｍ)を保ち、散布後７日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。また、入水は静かに行うこと。
- 湛水周縁散布の場合は、周縁部を移動しながら、ほ場中央部に向かって薬剤を投入すること。

● 本剤を水口施用する場合は、田面が露出しない程度に湛水した状態で、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、施用後田面水が通常の湛水状態（水深３～５ｃｍ）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないよう注意すること。
● 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
◆ 散布は各散布機種の散布基準に従って実施すること。
◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
◆ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合わせてメタリング開度を調整するとともに、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラ(スピンナ)の回転数を低速に調整すること。
◆ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から５ｍ以上離れた位置からほ場内に散布すること。
◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
● 藻や浮草が多発している水田や、水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分となり、効果が劣る可能性があるので、使用はさけること。
● 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深２ｃｍ／日以上）
◆ 軟弱な苗を移植した水田
◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
● 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
● 活着遅延が生じるような異常低温及び寡照条件下では、薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
● 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
● 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
● いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
● 著しい多雨条件では、除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
● 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

❖ 農薬使用者に係る注意事項
誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
❖ 魚毒性等：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。